

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 5 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K01449

研究課題名（和文）中国共産党による学際的政策の立案と実践：北極への取り組みを中心に

研究課題名（英文）The Communist Party of China's Multidisciplinary Policy Planning and Implementation: Its Arctic Engagements and Beyond

研究代表者

益尾 知佐子（Masuo, Chisako T.）

九州大学・比較社会文化研究院・教授

研究者番号：90465386

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は北極域への取り組みを中心に、中国共産党が科学技術振興を含む学際的政策をどのように立案し実践しているかを検討した。内外状況の大きな変化を受け、本研究を当初想定通りに進めることはできなかった。だが新たな進展を踏まえた政治学的な分析は可能で、特に中国の人工衛星網の構築と利用については新たな知見が提供できた。この研究実施期間中、中国は米国との長期的対立に備え、北極関連の問題でもロシアとで協力を強化し、また新たなデジタル技術と自国の統治モデルをグローバルに普及させようとした。本研究はこうした動向を分析しつつ、習近平政権が科学技術をどのように政治利用しているかを包括的に検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の実施期間は、新型コロナによるパンデミックの発生から4年間であった。この間、世界では米中対立が激化し、経済安全保障の観点から科学技術と国際政治の関係も注目された。また中国国内では習近平政権による集権化が進み、習政権は中国と自己のサバイバルをかけて科学技術の振興に励み、自国を「国家的実験室」にすると明言していた。こうした中で、本研究は国際政治の変化を牽引する一連の問題群を分析することになった。国内状況の変化により、詳細な政策決定過程の解明はかなわなかったが、習近平政権による科学技術の政治利用状況を随時、追跡していくことになり、内外のメディアや政策コミュニティから大きな注目を集めた。

研究成果の概要（英文）：This study examined how the Chinese Communist Party (CCP) formulates and implements interdisciplinary policies, including the promotion of science and technology, with a focus on its efforts in the Arctic region. Due to major changes in the internal and external situations surrounding China, we could not proceed with this study as originally envisioned. However, we were able to conduct a political science study based on new developments, and provided new insights on the construction and use of China's satellite network in particular. During the period of this study, China strengthened cooperation with Russia on Arctic-related issues and sought to diffuse new digital technologies and its governance model globally, in preparation for a long-term confrontation with the United States. This study analyzed these developments and comprehensively examined how the Xi Jinping administration is using science and technology for political purposes.

研究分野：国際関係論

キーワード：中国 北極 対外政策 科学技術 人工衛星 デジタル統治 海洋

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究を申請した2019年の時点では、国際関係の位相は現在とかなり異なっていた。米トランプ大統領の下で中国との貿易戦争はすでに始まっていたが、「一帯一路」にはまだ勢いがあり、中国は全方面的・複合的な世界戦略を積極的に展開し、米国との長期的な競争関係を乗り切ろうとしていた。中国の北極域への取り組みはその典型事例とみなされていた。中国は科学技術研究やインフラ建築などを推進して北欧諸国等との関係強化を図り、地球温暖化で活用が可能になってきた北極海でプレゼンスを確保し、新たな国際法体系の構築において中心的な役割を担う意欲を見せていた。

他方で中国の習近平政権は、国内では現在に連なる集権化を進めつつあった。あらゆる分野で「集中的統一的指導」を目指し、さまざまな専門分野をシームレスに統合した、極めて学際的な性質を持つ一連の政策を立案し実践していた。北極域に対する政策では、従来の責任部局だった国家海洋局が2018年に解体されていたが、その後は実行者が不明瞭なまま多くの措置が実施され続けていた。北極域に関しては、北極海航路の活用が提唱され、その開発に欠かせない人工衛星の開発も進んでいた。中国では極めて多くの分野の関連専門家が、系統の異なる別々の組織に分散して存在しているが、それが指導部の下で全体としてどうまとめられ、実施され、中国の国益に供されているのか、よくわからない状態が続いていた。

中国では胡錦濤時代まで、特定分野の政策を推進するのは、通常はひとつの専門組織だった。北極問題は伝統的には国際海洋問題の一部と位置づけられ、国務院の中に置かれた国家海洋局が、特に科学研究にフォーカスしながらこれを主管していた。だが近年の中国の北極政策は明らかに、軍や経済、法律部門を含む複数の専門組織が関与する形で、学際的に総合的に推進されていた。中国のそうした勢いは関係国を驚かせていたが、それに対する反応は肯定的なものとの否定的なものが入り混じった状況だった。

2. 研究の目的

以上を踏まえ、本研究は以下3点の解明を目的とした。第1に、中国の国内構造に焦点を当て、中国の北極域政策が全体としてどのように立案・実践されているかを明らかにすることであった。また第2に、国家ではなく中国共産党の「集中的統一的指導」が強調される国内政治の中で、習近平政権が科学技術をどのように政策に取り込み、国家戦略に活用しようとしているのかを分析することであった。第3に、そうした習近平政権の動向が国際秩序にどのような方向性とインパクトを与えているのかを検討することであった。

3. 研究の方法

当初想定は、学術論文データベースやニュースデータベースを活用しながら、中国および関係国で聞き取り調査を行い、「研究の目的」に記載した事柄を検討していくことであった。しかし当研究の遂行は、新型コロナウイルスの蔓延による世界的パンデミック、ロシアによるウクライナ戦争の発動と西側諸国の制裁、米中対立のグローバル化と科学技術の国際政治化、第3期習近平政権の成立と科学技術の政治的活用の深まり、中国における国家安全関連の法整備と運用の厳格化、などの予期せぬ事態が連続発生したことで、大幅な影響を受けた。

研究の前提が次々と崩れ、新たな事象が発生する中で、北極域をめぐる国際関係も様変わりしていった。北極域国家の間でロシアとそれ以外が対抗する状態となり、北極評議会の活動が停滞した。米国への深い猜疑心を持つ中国は、戦狼外交で北欧諸国の信頼を低下させたことも加わって、事実上ロシアの肩を持ち、ロシアと協力して北極域でのプレゼンスを維持する政策を推し進めた。また、新冷戦的な国際構造が深まる中、習近平政権は科学技術の発展を「人類運命共同体」実現の鍵とみなす傾向を強め、西側のやり方に対抗しうる新たなガバナンスモデルを打ち立てる土台として、科学技術の政治的活用を推進した。第3期習近平政権は実際、技術者の背景を持つ理系幹部を多数、中央政治局委員として登用した。こうした中で海外調査は、パンデミックだけでなく、中国における国家安全関連の立法措置と邦人・中国人研究者の拘束・逮捕事件、およびロシアとの関係悪化の影響を受け、中国・ロシアでは断念せざるを得なくなった。

以上を受け、研究の焦点と方法論は必然的に修正を求められた。北極域では、パンデミック終結後にアイスランドとグリーンランドで調査を行い、主にパンデミック以前に中国が両地域でどのように協力関係を発展させていったか、それによって現地社会の対中認識にいかなる変化が

生じたかなどを調査できた。ただし、パンデミック後は両地域で中国のプレゼンスは大幅に低下しており、中国の対外政策の重点がすでに他に移行したことが裏付けられた。他方、中国はロシアとの協力関係を強化していた。そのため本研究でも、中口間の外交動向や外交文書、科学技術関連の協力枠組みの動向を追うことで、中国の北極政策と、科学技術の国家戦略への活用度合いの分析を進めた。

緊密化する中口関係の中で特に目立っていたのは、両国の人工衛星システム間の協力（中国の「北斗」システムとロシアの GLONASS の同期化など）だった。ただし人工衛星システム自体は、北極域に限らず全世界的に運用できる。同時期、中国は途上国に警察協力や気候変動対策などを持ちかけ、自国のシステムの世界普及を目指す姿勢を強めていた。ソロモン諸島との安全保障協定など、科学技術・中国型ガバナンスと融合した前例のない外交的提案が次々になされた。そのため本研究では、中国の内外政策決定のあり方が大きく変化したことを強く意識しながら、そうした動向を丹念に拾っていく作業を行った。

加えて、中国のこうした新たな外交動向は、中国国内におけるデジタル統治の進展と緊密な関係を持っていた。特に国家海洋局の後継となった自然資源部が、2021 年ごろから実施している国土空間長期計画は、党中央の意志の下で国土と中国の「管轄海域」全域をデジタル管理し、ひいては世界の他の地域への観察監視を進める内容だった。半導体をめぐる米国との対立もあり、中国では科学技術振興策がますます政治化していた。これを受け、国土空間長期計画の解読と科学技術をめぐる国内政治状況の解明が急務となった。同時期、中国国内では文書管理が厳格化したため、内部資料にはアクセスできず、公開された限定的な行政文書や政府公開文書を丁寧に読み込んでいく作業を行わざるを得なかった。他方、中国当局は科学技術発展のために企業や大学の積極的な参加を促していたため、科学技術に関する民間動向を広く浅く追っていくことも、全体状況の分析には有効であった。

4 . 研究成果

研究対象をめぐる変化が大きすぎたため、当研究の成果は断片的なものに留まった。政治状況の変化により、科学技術をめぐる学際的な政策立案と実施の過程を解明する、という当初目的はほとんど達成できなかった。ただし別の側面から見れば、転換期における中国の国家戦略の全体動向を、時宜を逸することなく分析し、限定的な成果を国内外に発信し続けることには成功したといえる。

比較的進んだのは、中国の人工衛星網やデジタル統治の発展状況を解明し、その政治的活用状況を分析する作業である。これに関する成果は、英語の論文や本のチャプターとして公開できた。また中国の人工衛星網の開発は宇宙政策の発展と軌を一にしており、今日では国内政治の重要な一部となっているが、その歴史的発展の経緯は『アジア人物史』のために執筆した銭学森の項目などで整理した。加えて、習近平政権下で進む科学技術政策や、関連した国内政治動向、国土空間長期計画の進展、中口関係の発展、およびそれが北極域の国際関係に与える影響などについては、『週刊東洋経済』（中国動態）や『毎日新聞』（時流フォーラム）に寄せたコラムの中で何度も分析するとともに、数多くの国際会議やウェビナー、研究会の場で言及し、メディアに対しても多くの発言を行った。それにより、最先端の研究成果を頻繁に社会還元し、中国をめぐる内外の政策コミュニティの議論に貢献することが可能になった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計36件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 7件 / うちオープンアクセス 16件）

1. 著者名 益尾知佐子	4. 巻 -
2. 論文標題 習近平政権のハイテク政策と対外関係：海洋立体観測網の構築を中心に	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 21世紀政策研究所研究プロジェクト報告書『習近平政権三期目の目標と課題：強さと脆さ』	6. 最初と最後の頁 157-174
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 益尾知佐子	4. 巻 715
2. 論文標題 中国の国内統治と安全保障戦略：中国型警察の普及と国際秩序	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 40-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Chisako T. Masuo	4. 巻 -
2. 論文標題 China's Changing Tactics for Coercion Against Japan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 International Forum: How Democracies Counter the PRC's Economic Coercion	6. 最初と最後の頁 20-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 益尾知佐子（魏逸瑩・訳）	4. 巻 7-1
2. 論文標題 横跨東海の日中関係 発生緊張局勢的最前線	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 當代日本與東亞研究	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 益尾知佐子	4. 巻 -
2. 論文標題 「海洋強国」建設の現段階：宇宙-空-陸-海を結ぶ中国の海洋立体観測システム	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 21世紀政策研究所研究プロジェクト報告書『習近平政権の羅針盤：ポスト/ウィズコロナ時代の諸問題とそれへの対応』	6. 最初と最後の頁 133-157
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 益尾知佐子	4. 巻 -
2. 論文標題 2023年中口共同声明と世界の分断	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 「米中を超えて：自由で開かれた地域秩序構築の『機軸国家日本』のインド太平洋戦略」研究会報告書	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Chisako T. Masuo	4. 巻 4-3
2. 論文標題 The Relationship between Domestic Politics and Diplomacy under the Xi Jinping Administration	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Security Studies	6. 最初と最後の頁 64-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 益尾知佐子	4. 巻 4-3
2. 論文標題 習近平政権における内政と外交の関係性：大規模軍事演習への決断はなぜ下されたか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 安全保障研究	6. 最初と最後の頁 51-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 益尾知佐子	4. 巻 50-3
2. 論文標題 中国とユーラシア諸国との「相互信頼」：中国的信頼醸成の理想と限界	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国際安全保障	6. 最初と最後の頁 33-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 益尾知佐子	4. 巻 667
2. 論文標題 内外の脅威と戦う習近平政権：中国の安全保障がもたらす国際秩序の分裂	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東亜	6. 最初と最後の頁 18-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Chisako T. Masuo	4. 巻 23-1
2. 論文標題 ighting Against Internal and External Threats Simultaneously: China's Police and Satellite Cooperation with Autocratic Countries	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 IAI Papers	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 益尾知佐子	4. 巻 -
2. 論文標題 中国の空間インフラ建設とそのグローバルな影響	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本国際フォーラム「地政経学からみたユーラシア・ダイナミズム」研究会報告書	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 益尾知佐子	4. 巻 136-4
2. 論文標題 米国の圧力がもたらす中国外交の新たなステージ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中央公論	6. 最初と最後の頁 86-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Chisako T. Masuo	4. 巻 Apr 10
2. 論文標題 To Navigate the Senkaku Islands Dispute, Look to History	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Japan Times	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 益尾知佐子	4. 巻 7月19日
2. 論文標題 経済教室 権威主義との戦い(下) 体制間対立より現実主義	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本経済新聞	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Chisako T. Masuo and Jabin T. Jacob	4. 巻 Aug 9
2. 論文標題 China-Taiwan Crisis: Implications and Options for Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 India Today	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 益尾知佐子	4. 巻 78
2. 論文標題 「冷戦後」中国の脅威認識：なぜ警察協力が非西側諸国の国際公共財になりうるのか	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 134-141
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Fujio Ohnishi	4. 巻 10
2. 論文標題 Changing Arctic governance landscape: The Arctic Council navigating through geopolitical turbulence	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Current Developments in Arctic Law	6. 最初と最後の頁 102-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Marina Lomaeva and Fujio Ohnishi	4. 巻 10
2. 論文標題 Russia's International Arctic Policy after the Invasion of Ukraine: Experts' Voices in the Domestic Media	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Current Developments in Arctic Law	6. 最初と最後の頁 91-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Y. Kodama, N. Otsuka, J. Saunavaara, F. Ohnishi, S.Uto, Y. Fukamachi	4. 巻 -
2. 論文標題 Comprehensive Arctic Research Efforts by Integrating Field of Study -HAI-FES	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 The proceedings of the 37th International Symposium on the Okhotsk Sea & Polar Oceans 2023	6. 最初と最後の頁 181
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yuka Yoshida and Fujio Ohnishi	4. 巻 -
2. 論文標題 Envisioning the Future of the Earth from the Arctic: Activities of the Arctic Transdisciplinary Community of Practice	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 The proceedings of the 37th International Symposium on the Okhotsk Sea & Polar Oceans 2023	6. 最初と最後の頁 182-185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 益尾知佐子	4. 巻 FY2021-9号
2. 論文標題 中国のハイテク国家形成と尖閣問題：国土空間規画を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『研究レポート』日本国際問題研究所「インド太平洋」研究会	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Chisako T. Masuo	4. 巻 17:2
2. 論文標題 China's 'National Spatial Infrastructure' and Global Governance: Chinese Way of Military and Civil Fusion (MCF) over the Ocean	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Maritime Affairs	6. 最初と最後の頁 27-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/09733159.2021.2024383	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 益尾知佐子	4. 巻 194
2. 論文標題 中国の「国家空間インフラ」建設とグローバル・ガバナンス：海域応用からの考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 CISTECジャーナル	6. 最初と最後の頁 31-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Chisako T. Masuo, Paul Midford and Xin Wang	4. 巻 -
2. 論文標題 Can China Cooperate?: The Prospects of Fishery Governance in the East Asian Water	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Studies Association Annual Convention 2021	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Lis Lindal Jorgensen and Sei-ichi Saitoh eds.	4. 巻 2(79)
2. 論文標題 ICES/PICES/PAME Working Group on Integrated Ecosystem Assessment (IEA) For the Central Arctic Ocean	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ICES Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 1-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Harrison, Peter and Hyoung Chul Shin, Henry P. Huntington, David Balton, David Benton, Pan Min, Fujio Ohnishi, Guo Peiqing, Jacqueline M. Grebmeier, Scott Highleyman, Alfred Jakobsen, Marc Meloche, Olga Romanenko, Vyacheslav K. Zilanov	4. 巻 2
2. 論文標題 How Non-Government Actors Helped the Arctic Fisheries Agreement	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Polar Perspectives	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ohnishi, Fujio	4. 巻 -
2. 論文標題 The Beginning of the End? Arctic Politics in an era of Great Power Competition	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ISAR-6 Alternative Online Symposium Proceedings	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西富士夫	4. 巻 -
2. 論文標題 北極国際政治における米中露の戦略的競争の展開とその影響	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ロシア東欧学会2020年度研究大会プロシーディングス	6. 最初と最後の頁 1-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Saunavaara, Juha and Fujio Ohnishi	4. 巻 8
2. 論文標題 Arctic Challenge for Sustainability II: Japan's New Arctic Flagship Project	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Current Developments in Arctic Law	6. 最初と最後の頁 40-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 益尾知佐子 (顧揚・訳)	4. 巻 上
2. 論文標題 国家与社会編織的歴史：評傳高義『中国和日本』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国国際戦略評論	6. 最初と最後の頁 191-196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 益尾知佐子	4. 巻 -
2. 論文標題 習近平がテコ入れする「新法」で、中国は「尖閣の実効支配化」にいよいよ乗り出す：「中国海警法」が示す、次の海上行動	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代ビジネス	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 益尾知佐子	4. 巻 63
2. 論文標題 米国への怒りと恐怖が中国を動かす	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 72-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 益尾知佐子	4. 巻 514
2. 論文標題 『軍民融合』で描く社会主義中国の夢	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Voice	6. 最初と最後の頁 74-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 益尾知佐子	4. 巻 134(9)
2. 論文標題 習近平 土着共産主義者の皇帝化	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中央公論	6. 最初と最後の頁 82-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 益尾知佐子	4. 巻 6月号
2. 論文標題 中国の頼みの綱はWHO: コロナ禍で行き詰まる対外政策	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 e-World Premium	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計29件（うち招待講演 18件 / うち国際学会 16件）

1. 発表者名 Chisako T. Masuo
2. 発表標題 The National Security Strategy of China: What are the Characteristics? Changes and Continuities
3. 学会等名 Robert Schuman Center Conference: Whither National Security? Comparing the Strategies in the Era of Geopolitical Confrontations (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Chisako T. Masuo
2. 発表標題 Maritime Security Issues in Asia and Japan's Security Policy
3. 学会等名 Asia Library Open Lecture, Lund University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Chisako T. Masuo
2. 発表標題 China's Continued Maritime Expansion in the Indo-Pacific
3. 学会等名 Japan Institute of International Affairs & Osrodek Studiow Wschodnich Webinar "The Implications of Russia's Invasion of Ukraine for Europe, Asia and the International Order" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Chisako T. Masuo
2. 発表標題 China's Digitalized Fishery Reform and Its Implications on the Global Maritime Order
3. 学会等名 East Asian Maritime Conflicts Project 3rd Seminar "East Asian Maritime Conflicts and Cooperation: Technology, Sustainability, and UNCLOS" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Natsuhiko Otsuka, Fujio Ohnishi
2. 発表標題 Sustainability of the Northern Sea Route, commercial, environmental, and social perspectives
3. 学会等名 Seventh International Symposium on Arctic Research (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Fujio Ohnishi
2. 発表標題 Arctic science and international cooperation from an IR perspective
3. 学会等名 Arctic Circle Japan Forum: Asia in the Future of the Arctic (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yuka Yoshida, Fujio Ohnishi
2. 発表標題 Envisioning the Future of the Earth from the Arctic - Activities of the Arctic Transdisciplinary Community of Practice
3. 学会等名 The 37th International Symposium on the Okhotsk Sea & Polar Oceans 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大西富士夫
2. 発表標題 北極域をめぐる国際情勢と地政学的インプリケーション
3. 学会等名 特別セミナー「ウクライナ侵攻のインパクトー北極の経済、産業、政治及び科学」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Fujio Ohnishi
2. 発表標題 Rethinking the internationality of Arctic politics: how much does the Ukraine crisis impact on Arctic politics?
3. 学会等名 ARC seminar
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 益尾知佐子
2. 発表標題 中国の国土空間規画とその国際的インプリケーション
3. 学会等名 ArCSII国際政治課題2021年度サブ課題1研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 益尾知佐子
2. 発表標題 科学と統治：中国『国土空間長期計画』の現状と展望
3. 学会等名 アジア太平洋研究会（JST）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 益尾知佐子
2. 発表標題 科学でかなえる『中国の夢』：国境からはみ出る習近平の国内ガバナンス
3. 学会等名 経団連21世紀政策研究所主催中国セミナー（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Chisako T. Masuo
2. 発表標題 Can China Cooperate? The Prospects of Fishery Governance in East Asian Waters
3. 学会等名 Technology as a Driver of Maritime Conflict and Environmental Insecurity in East Asia and Possible Solutions, 2nd. Seminar (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 益尾知佐子
2. 発表標題 中国の漁業改革と空間インフラ
3. 学会等名 水産研究・教育機構セミナー(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 24.Chisako T. Masuo
2. 発表標題 Why High-tech Innovations?: Political Implications of Chinese 'Territory and Space Program
3. 学会等名 100 Yrs Chinese Communist Party Special Series, GRIPS SISP/MSP Seminar, National Graduate Institute for Policy Studies (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 益尾知佐子
2. 発表標題 習近平政権と科学技術：『中国の夢』が作り変える国際秩序
3. 学会等名 独立行政法人経済産業研究所 (RIETI) BBLセミナー グローバル・インテリジェンス・シリーズ(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Chisako T. Masuo, Paul Midford and Xin Wang
2. 発表標題 Can China Cooperate?: The Prospects of Fishery Governance in the East Asian Water
3. 学会等名 International Studies Association Annual Convention 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Fujio OHNISHI
2. 発表標題 National Arctic Policy, Cooperation with AC, Proposal of observer-led projects - A Japanese perspective
3. 学会等名 Seminar on Cooperation for Global Arctic (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大西富士夫
2. 発表標題 北極における大国間競争：地域 - 国際政治のリンケージ
3. 学会等名 ArCSII国際政治課題2001年度サブ課題1研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大西富士夫
2. 発表標題 北極国際政治における米中露の戦略的競争の展開とその影響
3. 学会等名 ロシア東欧学会2020年度研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ohnishi, Fujio
2. 発表標題 The Changing Arctic Regional Order
3. 学会等名 Nordic-Baltic Connectivity with Asia via the Arctic Project, Estonian Foreign Policy Institute (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ohnishi, Fujio
2. 発表標題 International Cooperation in the Arctic: Formation, Development and Challenges
3. 学会等名 Japan-Russia Interregional Cooperation in the Arctic: Theory and Practice (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ohnishi, Fujio
2. 発表標題 Panel Speaker, The Arctic Region: What are the Interests of the Arctic and Non-Arctic States?
3. 学会等名 Stockholm International Peace Research Institute, Webinar Series: The Strategic Triangle in the Arctic (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ohnishi, Fujio
2. 発表標題 Panel Speaker, Arctic Multilateralism : Making and Changes
3. 学会等名 Arctic Political Forum, Norwegian Embassy in Tokyo & JIIA (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大西富士夫
2. 発表標題 北極海をめぐる地政学的図式とその行方
3. 学会等名 第8回北極域オープンセミナー
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 益尾知佐子
2. 発表標題 相互依存の恐怖：中国にとってのトランプ外交
3. 学会等名 国際安全保障学会2020年度年次大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 益尾知佐子
2. 発表標題 中国はなぜ北極圏に注目するのか
3. 学会等名 第9回北極域オープンセミナー「東西回廊としての北極海、持続的利用と今後」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Masuo, Chisako T.
2. 発表標題 Arctic Economic and Security Agenda
3. 学会等名 6th U.S.-Japan-Russia Trilateral Conference: Risks and Opportunities for Cooperation and Security in the Asia-Pacific (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Masuo, Chisako T.
2. 発表標題 The Rise of China and Prospects for Quad Cooperation: Questions raised by the new Coast Guard Law
3. 学会等名 JIIA-ASPI 1.5 Track Dialogue 2021 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 北岡伸一編	4. 発行年 2024年
2. 出版社 一般財団法人日本経済交流財団	5. 総ページ数 -
3. 書名 国際経済政策シリーズ第4号 グローバルサウスと共に創る法の支配に基づく新国際秩序(仮題)	

1. 著者名 坪内淳編	4. 発行年 2024年
2. 出版社 志学社	5. 総ページ数 -
3. 書名 国際関係学叢書 第3巻 安全保障	

1. 著者名 Paul Midford, Jennifer L. Bailey, Espen Moe and Katja Levy eds.	4. 発行年 2024年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 294
3. 書名 Navigating East Asian Maritime Conflicts: Technological Change, Environmental Challenges	

1. 著者名 Tosh Minohara ed	4. 発行年 2024年
2. 出版社 MHM Limited	5. 総ページ数 294
3. 書名 Handbook of Japan's Foreign and Domestic Policies During the Decade of Abe	

1. 著者名 伊東利勝他著	4. 発行年 2024年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 1088
3. 書名 アジア人物史 第12巻 アジアの世紀へ	

1. 著者名 森本敏編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 一般財団法人日本経済交流財団	5. 総ページ数 240
3. 書名 国際経済政策シリーズ第3号 台湾危機をめぐる日本の外交・安全保障戦略、対外経済政策の在り方	

1. 著者名 寺田 貴	4. 発行年 2023年
2. 出版社 彩流社	5. 総ページ数 234
3. 書名 インド太平洋地経学と米中覇権競争 : 国際政治における経済パワーの展開	

1. 著者名 21世紀政策研究所編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 21世紀政策研究所新書	5. 総ページ数 104
3. 書名 中国シンポジウム：中国が抱える諸問題と先端技術を活用した統治	

1. 著者名 高原 明生、園田 茂人、丸川 知雄、川島 真	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 432
3. 書名 日中関係 2001-2022	

1. 著者名 21世紀政策研究所編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 21世紀政策研究所新書	5. 総ページ数 94
3. 書名 中国の重要政策を展望する：科学、マクロ経済、新疆問題	

1. 著者名 岩下 明裕	4. 発行年 2021年
2. 出版社 北海道大学出版会	5. 総ページ数 310
3. 書名 北東アジアの地政治	

1. 著者名 Lukin, Alexander ed.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 454
3. 書名 The “Roads” and “Belts” of Eurasia	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	大西 富士夫 (Ohnishi Fujio) (20542278)	北海道大学・北極域研究センター・准教授 (10101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
ノルウェー	ノルウェー科学技術大学 (NTNU)		